

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Poor Schedule Management Leads to Discontinuity of Medical Attendance among Patients Infected with HIV 《筆頭論文》	共著	2019年3月	Health, 11(3), 277-288	23名へのHIV感染者へのインタビューデータをテキストマイニングの手法を用い、分類し、HIV感染者が受診中断に至るまでの経験と行動について明らかにした。 Fumiko Kagiura, Megumi Shimada, Masayuki Kakehashi 担当：インタビュー、データの分析、論文執筆
2 (学術論文) Brief HIV stigma scale for Japanese people living with HIV: validation and restructuring using questionnaire survey data 《筆頭論文》	共著	2019年10月	AIDS care, 28;1-9.	アメリカで開発されたHIVスティグマ尺度の日本語版を作成し、信頼性と妥当性の検証を行った。 Fumiko Kagiura, Teruhisa Fujii, Nobuko Kihana, Eiko Maruyama, Yuka Shimoji, Masayuki Kakehashi 担当：研究デザイン、データ収集、分析、論文執筆
3 (学術論文) Trends in CD4+ cell counts, viral load, treatment, testing history, and sociodemographic characteristics of newly diagnosed HIV patients in Osaka, Japan, from 2003 through 2017: a descriptive study 《筆頭 論文》	共著	2023年5月	Journal of Epidemiology,33 (5), 256-261.	2003年から2017年までに新たにHIV感染症と診断された2250人の診療録を分析し、記述的研究を行った。その結果、新たにHIVに感染している人（未診断者を含め）は減少傾向にあることが推察された。 Fumiko Kagiura, Ryota Matsuyama, Dai Watanabe Yuuki Tsuchihashi , Kazuhiko Kanou, Takuri Takahashi, Yusuke Matsui, Masayuki Kakehashi, Tomimasa Sunagawa, Takuma Shirasaka 担当:分析、論文執筆
4 (学会発表) Psychosocial factors impacting non-retention in care among Japanese adults with HIV: Cross- sectional analysis using Elastic Net logistic regression	共著	2023年3月	EAFONS 2023 (p.146)	2017年から2020年にHIV感染者に配布した質問紙調査のデータを使用し、HIV感染者の受診中断の要因をエラスティックネット ロジスティック回帰分析を用いて分析した。433人の回答者のうち、受診中断があったのが34人(7.9%)であった。受診中断に関連していたのは、スマートフォンでの受診日の管理をしていない、低い自尊感情、若年者、喫煙、薬物の使用、治療が開始されていない、精神科を受診していないことであった。モデルのAUC(Area Under Curve)は0.924であった。 Fumiko Kagiura, Kimiko Tagawa, Masayuki Kakehashi 担当：研究デザイン、データ収集、分析、ポスター作製